

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100368
法人名	有限会社 都紀
事業所名	グループホーム 本庄紀水苑
所在地	佐賀県佐賀市本庄町大字袋229-8 (電 話) 0952-41-1262

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年2月12日	評価確定日	平成 20年3月24日

【情報提供票より】(平成20年1月24日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 10 日
ユニット数	ユニット 利用定員数計 9人
職員数	10人 常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.3 人

(2)建物概要

建物構造	木造スレート瓦葺2階建造り
	2 階建ての 1階 ～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円(2階18,000円)	その他の経費(月額)	9,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円 昼食 円		
	夕食 円 おやつ 円		
	または1日当たり 800円		

(4)利用者の概要(1月24日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 80.3 歳	最低 67 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	諸隈病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同法人では3箇所ของกลุ่มホームが運営され、それぞれのグループホームの職員との連携が図られ、入居者の生活を法人全体で支えるよう取り組まれている。建物は大通りには近いものの、閑静な住宅街にある、民家改修型ของกลุ่มホームで、我が家に居るという安心感があり、佇まいも周辺の町並みに馴染んでいた。「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」を理念に掲げられ、入居者の残存能力を引き出し、活用しながら、日常の居心地のよさと職員のさりげない配慮が入居者の笑顔に繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	外部評価での改善点を職員全員で検討し、改善に向けて取り組まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価はスタッフ全体で協議のうえ作成されており、外部評価の結果を参考に改善点が見出されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は入居者、家族、地域の方、行政参加され、活発に意見が出されており、改善へ向けての活動が充実している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム便りに入居者個別の暮らしぶりや写真等を送付することで、喜びの表情や日常の楽しみ等の様子を家族に知らせる工夫が期待される。 年4回開催される家族会では、活発に意見が出ており、これをスタッフミーティングで協議し、改善に向けての迅速な対応がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ボランティア、中学生のインターンシップを受け入れる等、積極的に地域への参加をしておられ、交流の機会を多く持たれている。今後は、地域への広報等にも取り組まれ、地域からの理解を得られる働きかけをされることが期待される。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」に「地域との交流」を新たに理念として加え、家庭的な環境づくりと地域との交流がなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各所に掲げ、全職員が確認し合い、理解、浸透している。毎月のミーティングで意識統一が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティア、インターンシップ中学生の受入をする等、積極的に地域活動への参加をしておられ、交流の機会を多く持たれている。	○	更に今後は、回覧板の広報等を活用し、入居者が参加できるような地域行事の情報収集を行い、積極的に地域交流を推進されることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフで話し合いを持ち、作成されており、外部評価の結果を参考にスタッフ全体で話し合い、改善点が見出されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、家族、地域の方、利用者参加で二ヶ月に1回の運営推進会議が開催され、出された意見をサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや、その他の行政も度々足を運び、その際、質の向上に関する意見を頂き、改善検討されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時にホーム全体の報告がなされている。また、ホーム便りを作成して家族へ送付されている。	○	更に今後は、入居者個別に暮らしぶりを知らせるお便りを作成するなど、一人ひとりの情報を伝える工夫が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回開催される家族会では、活発に意見が出ており、これをスタッフミーティングで協議し、改善に向けての迅速な対応がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動を最小限に抑えるよう努められている。交替がある時は新旧職員の重複勤務期間を設けることで、引継ぎを十分に行い、入居者が混乱しないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術チェック表等を用いて系列組織内での勉強会が開催され、経験豊富な職員からの十分な指導を受けられる体制が整っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズのグループホーム同士の交流研修の機会が設けられており、職員交換研修システム等により、ネットワークの構築体制ができています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の体験宿等で徐々に馴染んで頂くよう、利用に至るまでの心理面への配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆっくり、一緒に、楽しく、自分らしい生き方を求めて」との理念に基づき、ともに喜怒哀楽を分かち合い、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いに寄り添い、困難も受け入れながら、信頼関係を築き、本人本位に検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	情報収集を十分行ない、ミーティングや担当者会議を開催して介護計画の見直しを行うことで、本人、家族の意見を十分に取り入れた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月ごとにモニタリングを行うとともに、状態変化時にはその都度話し合い、新規・追加のプランが作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が付き添いできない場合の病院への同行など行われており、柔軟な支援体制がとれるよう工夫されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望に応じたかかりつけ医をもっており、24時間対応可能な医療機関とも十分な連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族と契約時に話し合い、意向を取り入れながら医療機関との協議がなされ、方針の共有化が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフは、入居者一人ひとりを尊敬し、否定をしないケアが行われている。個人情報の取り扱いについては職員採用時に書面を取り交わすことで徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の残存能力、ペースに合わせたさりげない言葉かけや支援がなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立を入居者と一緒に考え、材料を切り、食卓のセッティングをするなど、共に楽しみながら意欲を引き出す支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望やタイミングをはかり、体調等に合わせた支援がなされている。また、希望に添い、入浴剤を入れるなど楽しみの持てる入浴となるよう工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯干しや調理等、希望に添いながら残存能力を活かした役割をもつことで、喜びと張り合いのある日常生活の支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物を楽しみ、庭での草取り等、希望に応じて外出支援がなされている。車椅子、独歩であっても一人ひとりの残存能力に合わせての外出支援がなされており、入居者は月に一度のバスハイクを楽しみにしておられる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の24時間見守体制が十分にできており、鍵をかけないケアを実践されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣住民への災害時協力を求め、体制が整っている。年2回の消防訓練を近所の方も協力してもらいながら行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	使用食品一覧を作成し、栄養バランスを考えた食事内容である。個別のチェック表で摂取量が確認されている。フランチャイズ本部の管理栄養士による献立のアドバイスを受け、個別に提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほどよい日ざしの共有空間で、それぞれが居心地のよい場所を確保しておられ、思いおもいに過しておられる。季節を感じさせる花や置物で和むことができている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の使い慣れたものは共同生活に支障がない限り、全て希望に添って持ち込むことが可能である。使い慣れたものがあることで、安心して生活していただけるよう工夫されている。		